

第58回日本薬剤師会学術大会



庶務・広報・
制作物部門長
芝原由典先生



庶務・広報・
制作物部門
片岡礼奈先生



庶務・広報・
制作物部門
渡邊由佳子先生

47年振りに京都に帰ってきました (その2)

本コーナーでは学術大会が開催に至るまでのエピソードや想いを毎月ご紹介します。今回は庶務・広報・制作物部門長の芝原由典先生、片岡礼奈先生にお話を伺いました。

聞き手：渡邊由佳子（庶務・広報・制作物部門）

—庶務・広報・制作物部門は57回大会の埼玉での広報が仕事始めとなり、昨年6月から他部門の先頭をきっての活動スタートとなりました。埼玉学術大会でのプロモーションビデオ（PV）作成をはじめとする広報全般を担当されましたが、PVを担当するにあたってのご苦労、想いをお聞かせください—

芝原：京都府薬剤師会の魅力を伝え「京都開催の日薬学術大会に行きたい！」と思っていただけるようなものを企画したいというのが一番の想いです。埼玉のPVは若者の心を惹きつけるものであったため、これを凌駕する（越える）内容を作りたいとの思いから、制作のハードルが上がりました。笑いを取りに行くため、河上会長の十二単や水戸黄門の仮装の提案（水戸黄門になる気持ちは仕上がっておられたと思います）もありました。

—ちょっと見てみたかったです（笑）—

芝原：最終的にはテーマ「そうだ、薬剤師に聞いてみよう！プロフェッショナルリズムの涵養」に沿った内容のPVに仕上げました。撮影は、一発OKで出演者皆様の演技力に感服しました。

片岡：PVでは協働、切磋琢磨し京都府薬剤師会ならではの「薬局、病院、学校薬剤師」の連携を紹介したいと思いました。たくさんの方のアイディアと想いの詰まったものに仕上がったと思います。楽しんでいただけたら嬉しいです。

—独自の販促物デザイン、PV作成における業者との折衝など、経費削減にも努力されましたね—

芝原：先頭スタートでしたのでどれほどの予算をかけられるのか見通しが立たない状況でした。片岡委員はじめ皆様の協力もあり経費削減につながったと思います。

—京都開催の日薬学術大会におけるポスター、コンgresバック制作についてのご苦労、想いをお聞かせください—

芝原：大会実行委員会において大多数のコンセンサスを取ることは難しかったですが、目的は「参加者の満足度をあげる事」でひとつです。大会実行委員へのアンケートも複数回取り、委員会内でも細部にわたって検討を重ねるなど、とても良い勉強になりました。

—参加を検討されている方に一言お願いします—

芝原：「SDGsの町 京都」をテーマにマイバックとして使用できるコンgresバックを複数作成し、「選択肢を設ける」新しい試みに取り組んでいます。

片岡：京都を感じながら多くの事を学べる学術大会になるよう準備を進めています。是非、一緒に京都の秋を楽しみましょう！

—それでは今回はここまでいたします。引き続き、皆様に学術大会情報お伝えしていきます—